

2013年度 一橋大学・吉林大学共同シンポジウム

# 東アジアの経済と金融

— 経済のグローバル化と日中協力の方向性 —

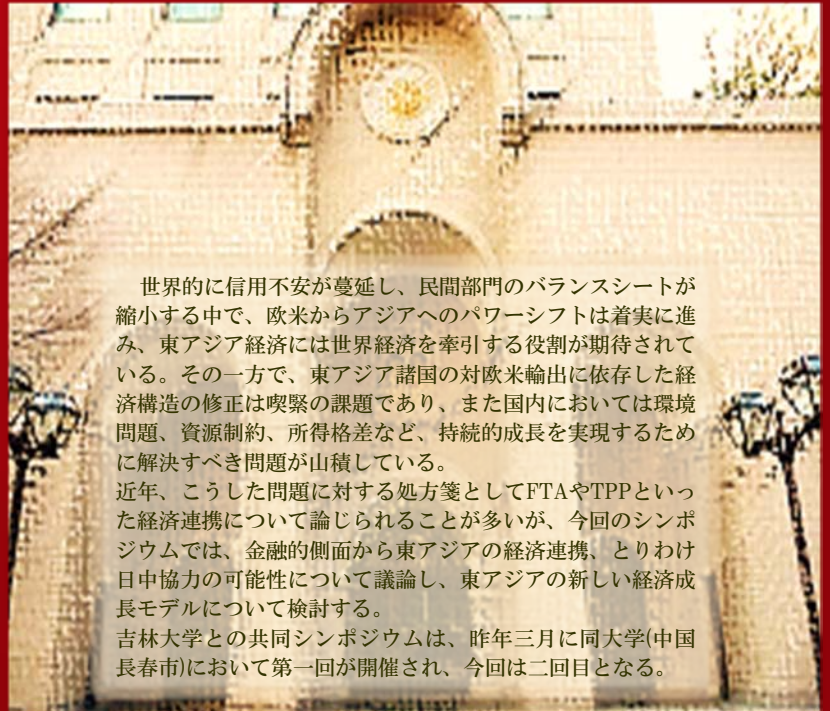
日時 2013年7月5日(金)  
13:30~17:00

場所 **如水会館** 2Fオリオンルーム  
東京都千代田区一ツ橋2-1-1

定員 100名 [対象：一般]  
(参加無料、申し込み先着順)

主催：一橋大学大学院商学研究科 / 吉林大学  
特別協賛：みずほフィナンシャルグループ

責任者：商学研究科商学研究室



世界的に信用不安が蔓延し、民間部門のバランスシートが縮小する中で、欧米からアジアへのパワーシフトは着実に進み、東アジア経済には世界経済を牽引する役割が期待されている。その一方で、東アジア諸国の対欧米輸出に依存した経済構造の修正は喫緊の課題であり、また国内においては環境問題、資源制約、所得格差など、持続的成長を実現するために解決すべき問題が山積している。

近年、こうした問題に対する処方箋としてFTAやTPPといった経済連携について論じられることが多いが、今回のシンポジウムでは、金融的側面から東アジアの経済連携、とりわけ日中協力の可能性について議論し、東アジアの新しい経済成長モデルについて検討する。

吉林大学との共同シンポジウムは、昨年三月に同大学(中国長春市)において第一回が開催され、今回は二回目となる。

## ■プログラム■ 日中同時通訳付

13:30 開会の辞(総合司会) 小西 大 氏<一橋大学大学院商学研究科教授>

13:30 挨拶 山内 進 氏<一橋大学学長>  
李 俊江 氏<吉林大学経済学院院长>  
三隅 隆司 氏<一橋大学大学院商学研究科長>  
大門 栄城 氏<みずほ銀行中国営業推進部長>

## 13:50-15:10 基調報告

「コーポレート・ガバナンス論の系譜」  
花崎 正晴 氏<一橋大学大学院商学研究科教授>  
「ドル体制下における東アジアの経済発展：米中経済連動性の変化の可能性」  
李 曉 氏<吉林大学経済学院副院长>  
「日本・中国のクリティカルな鉱物資源における今後の相互協力」  
岡田 昌徳 氏<JX日鉱日石金属会長>  
「銀行業の市場構造と企業業績 理論分析と中国における実証分析」  
丁 一兵 氏<吉林大学国際経済学部学部長>

## 15:25-16:55 パネルディスカッション

パネリスト 小川 英治 氏、花崎 正晴 氏、岡田 昌徳 氏、  
李 曉 氏、丁 一兵 氏、張 虎 氏<吉林大学経済学院講師>  
コーディネーター 中村 恒 氏<一橋大学大学院商学研究科准教授>

16:55 閉会の辞 小川 英治 氏<一橋大学理事・副学長>

## 参加申し込み方法・問い合わせ先

お申込みは、①ご氏名②ご所属③連絡先(TEL、FAX、E-mail)を明記の上、下記までご連絡下さい。確認後、受付いたします。[締切:6月25日(火)]

《一橋大学・吉林大学共同シンポジウム事務局》  
E-mail: [sympo20130705@cm.hit-u.ac.jp](mailto:sympo20130705@cm.hit-u.ac.jp)  
TEL: 042-580-8564 / FAX: 042-580-8747

※個人情報厳格に管理し、シンポジウム開催の目的のみに利用します



## 交通機関のご案内

- 「神保町」駅 A8・A9出口 徒歩3分  
(地下鉄半蔵門線、都営地下鉄新宿線、都営地下鉄三田線)
- 「竹橋」駅 1b出口 徒歩4分(地下鉄東西線)